

論文名 : Relationship Between Metabolic Syndrome and Periodontitis in 80-year-old Japanese Subjects

(80 歳日本人高齢者におけるメタボリックシンドロームと歯周病の関連)

新潟大学大学院医歯学総合研究科 予防歯科学分野

氏名 皆川 久美子

---

要約 :

背景および目的 :

メタボリックシンドロームは、肥満とインスリン抵抗性を背景に冠危険因子が集積した病態である。これは生活習慣が関与する多くの病態を含み、さらに心血管疾患や慢性腎臓病の重要なリスクファクターとなっていることから、多数の分野から注目されている。近年、メタボリックシンドロームと歯周病との関連が報告され続けているが、これらの先行研究は 40-75 歳の年齢層をターゲットとしており、75 歳以上の高齢者において、メタボリックシンドロームと歯周病の関係をみた調査研究はほとんど認められない。高血圧をはじめとするメタボリックシンドロームの危険因子の有病率は年齢とともに上昇するため、メタボリックシンドロームの有病率も年齢とともに上昇する。高齢者においてもメタボリックシンドロームは心血管疾患や慢性腎臓病のリスクを増大させることが報告されている。また加齢は歯周病のリスクファクターでもある。75 歳以上の高齢者が約 1400 万人、総人口に対する割合が 11.2%の超高齢社会となっている日本において疫学研究に基づき両者の関連を明らかにすることは重要であると考えた。本研究は、地域在住 80 歳高齢者におけるメタボリックシンドロームと歯周病との関連を評価することを目的とした。

方法 :

2008 年に行われた調査に協力の得られた政令指定都市在住 80 歳 234 名を対象とした。血液生化学検査および質問紙調査結果から、メタボリックシンドローム診断基準検討委員会の判定基準に基づき有病者を定義した。また、5mm 以上の近遠心歯周ポケットを 3 カ所以上もち、6mm 以上の近遠心アタッチメントロスを 6 カ所以上持つ者を重度歯周病有病者、5mm 以上の近遠心歯周ポケットを 6 カ所以上、もしくは 4mm 以上の近遠心アタッチメントロスを 6 カ所以上持つ者を中等度歯周病有病者と定義した。これは、2007 年に発表された、CDC (アメリカ疾病予防管理センター) Working Group の歯周病の定義を改変したものである。また、メタボリックシンドローム診断基準検討委員会の定義より、内臓脂肪 (腹腔内脂肪) 蓄積 (腹囲 : 男性 85cm 以上、女性 90cm 以上) を必須項目とし、それに加え、血圧高値 (収縮期血圧 130mmHg 以上または拡張期血圧 85mmHg 以上、または医師による診断を受けている者)、高血糖 (HbA1c6.0%以上、または医師による診断を受けている者)、脂質異常 (血清トリグリセライド値 150mg/dL 以上または HDL コレステロール値 40mg/dL 未満、または医師による診断を受けている者) の 3 つの項目のうち 2 項目以上が

当てはまった場合をメタボリックシンドロームと定義した。そして、歯周病の重症度を目的変数とし、メタボリックシンドロームの有無を説明変数、また性別、収入、教育水準、喫煙状況、口腔清掃回数、および歯科定期検診の有無を共変量とする順序ロジスティック回帰分析を用いて、メタボリックシンドロームと歯周病の関連について評価した。

結果および考察：

対象者のうち、メタボリックシンドローム有病者は 57 名 (24.4%)、非有病者は 177 名 (75.6%) であった。メタボリックシンドロームは歯周病の重症度と有意に関連していた (オッズ比 [95%信頼区間] = 2.24 [1.14-4.41], 調整オッズ比 [95%信頼区間] = 2.10 [1.03-4.28])。しかし、メタボリックシンドローム診断の構成要素をそれぞれ単独で歯周病との関連をみたとき、歯周病の重症度との間に有意な相関は認められなかった。これは危険因子の集積が歯周病に影響を及ぼすことを示唆している。

今回、高齢者においてもメタボリックシンドロームが歯周病と関連していることが明らかとなり、生涯にわたるメタボリックシンドロームの予防が全身の健康のみでなく、口腔の健康の維持に繋がることが示唆された。しかし、今回の研究は横断研究であったため、歯周病とメタボリックシンドロームのさらなる解明には、縦断研究あるいは臨床研究が必要である。

結論：

本研究の結果から、地域在住高齢者においてメタボリックシンドローム有病者は歯周病の有病率および重症度が高いことが示唆された。